

## 令和5年度桐生市景観講演会

### 「現代美術のキュレーター、群馬でわくわくを企む～街とアートの接点を探して」

桐生市では、景観行政団体になった平成25年以降、景観形成に関わる様々な取組みを実施しており、そのひとつとして、多くの方にまちの景観を意識し考えていただく機会となるよう、景観講演会を開催しております。

今回は、桐生市在住で東京藝術大学准教授／アーツ前橋チーフキュレーター※の宮本武典さんを講師に迎え、令和5年11月17日（金）に美喜仁桐生文化会館（スカイホール）にて講演をいただきました。宮本さんは、国内では奈良、東京、山形、国外ではバンコク、パリと様々な街で暮らしてきた経験があり、そうした中で2019年に桐生市内の重要伝統的建造物群保存地区に移住をされています。

（※キュレーター＝展覧会の企画・監督などを行う専門職）

講演会の関連イベントとして、講演会の周知と市の取組内容を紹介するパネル展を市役所1階市民ロビーにて10月16日～11月9日に実施し、講演会当日も同様の展示を会場前のスペースで行いました。宮本さんがキュレーターを務める展示会のポスターを合わせて掲示したこともあり、講演会と共に景観まちづくりに興味を持っていただく良い機会となりました。

講演会では、まず市から、景観行政の取組みについての発表を行いました。景観条例、屋外広告物条例の経緯を説明するとともに、色彩基準や屋外広告物の改善路線など具体的な制度・取組みの紹介を行いました。

市の発表後、「現代美術のキュレーター～街とアートの接点を探して」とのテーマで、宮本さんにお話しをいただきました。

講演では宮本さんがこれまで携わってきた芸術プロジェクトの事例を紹介いただきました。東北大震災前後での東北地方での活動から、絵本作家荒井良二氏らとの山形ビエンナーレの立ち上げ、角川武蔵野ミュージアムの開館事業や東京で暮らす外国の方に焦点を当てた作品、そして桐生での織物工場を活用した学生さん達との活動など、非常に多くの芸術企画について動画やスライドを交えて説明いただきました。

その多くに共通していたのは、単に芸術作品を持ってきて展示するのではなく、その地域の外から来たアーティストが地元の人たちと共に、その地域の風土や歴史をもとにした作品を作り、次の世代につなげていくという姿勢でした。今後の景観を含めたまちづくりにもつながっていくような大変興味深い講演をいただきました。



宮本 武典さん  
（東京藝術大学准教授/  
アーツ前橋チーフキュレーター）



パネル展の様子



講演会の様子